

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

学力調査では、数学の正答率は県・全国平均ともに上回っているが、国語の正答率は全国平均をわずかに下回る結果となった。生徒質問紙調査の『学習習慣』では、平日1日あたりの家庭学習時間（塾等を含む）が「2時間以上」の回答が全国平均を10ポイント以上、上回ったが、数学・国語の『興味・関心』において、「好きか」「大切だと思うか」の質問では、依然、全国平均を下回った。さらに、「学習したことは、社会に出たときに役立つと思うか」の質問についても全国平均をわずかに下回り、学ぶ楽しさや意義を感じられなかったりするなど、『学習に対する興味・関心』に課題が見られた。また、自宅に読書用の本がある割合が低く、読書離れも懸念される結果となった。

『自己有用感』は昨年度同様、全国平均をわずかに下回っているが、『規範意識』として、「いじめはどんな理由があってもいけない」と肯定的な回答をする生徒は、県平均・全国平均を下回っているものの、昨年度と比較すると、その差は小さくなっている。

【強み】

- 国)** 「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての区分で、全国平均をわずかに下回っているものの、県平均は1~2ポイント上回った。特に、文脈に即して漢字を正しく書いたり、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめる問題の正答率は県・全国平均ともに上回った。
- 数)** 「数と式」「図形」「関数」の領域において、正答率が全国平均を上回っており、その知識・技能は定着しているといえる。記述式の問題においても、県・全国平均ともに上回っており、筋道を立てて証明したり、数学的に説明する力が身につけている。

【弱み】

- 国)** 情報の扱い方に関する事項と我が国の言語文化に関する事項において、県平均を下回っている。特に意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係についての理解や行書の特徴の理解を問う選択式の問題において県・全国平均を下回る結果となった。
- 数)** 「データの活用」の領域で、全国平均を4ポイント下回った。特にデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現で説明することに課題が見られた。

【指導の充実に向けて】



- 国)** 図やグラフ、その解説等の文章などを読み必要な情報を読み取る学習や、意見と根拠、具体と抽象などの関係を意識して読む学習を繰り返し取り入れる。
- 数)** 答えを出すまでの過程や、分析した結果を数学用語を使って説明する機会を多く設ける。
- 他)**
 - 国数の学習の定着は全国平均と差がないが、学習への関心が低いため、意欲的・主体的に学習に取り組めるよう、タブレットを活用した課題解決学習や探究的学習を取り入れる。
 - 校内研究や教科部会でこれまでの授業スタイルを見直し、授業改善を図る。
 - 生活習慣では、朝食摂取率が高く、スマートフォンの利用も家庭での約束が守れている生徒が大半を占めており、以前と比較して改善がみられた。今後も食育や情報モラル学習など子どもたちの知・徳・体を一体的に育む教育活動を進める。